

**地域と駅の更なる活性化のため、スイッチバックで知られる
二本木駅の駅施設をリニューアルし、かつての外観を再現します。**

えちごトキめき鉄道・妙高はねうまラインの二本木駅（新潟県上越市中郷区）は、現役のスイッチバック駅として全国のお客様にお越し頂いています。この度、地域と駅の更なる活性化を図るため、上越市歴史的建造物等整備支援事業を活用したリニューアル工事を実施することになりましたのでお知らせします。

記

1. リニューアル工事の内容

(1) 駅舎内コミュニティスペース「さとまる一む」がより快適・便利になります。

- ・「さとまる一む」では地域住民の皆様が喫茶店を営業し、町の憩いの場になっています。
- ・さらなる活用と利用を図るため、軽食営業向けの設備と空調設備を整備します。

(2) 二本木駅駅舎（明治43年築）等の老朽箇所を修繕し、かつての外観を再現します。

- ・駅構内には明治末期から昭和初期に建てられた歴史的建造物が7棟も残存しています。
- ・歴史的建造物の魅力を発信するため、老朽箇所を修繕し、かつての外観を再現します。

※駅舎の外観は建築当初の姿が一部残っていた昭和40年代の写真を参考に再現します。

工事内容：駅舎外壁の張替、塗装、高窓の修繕・ホーム待合所案内板の修繕等

(3) 日本曹達（株）二本木工場様寄贈の車両車輪を展示します。

- ・二本木駅は長きにわたり、日本曹達（株）様の貨物輸送と共に歩んできました。
- ・この工事を記念し、同社より寄贈して頂いた車両の車輪を駅前に展示します。

2. 工事期間

平成30年8月20日（月）から2か月程度



3. 今後について

- (1) 「さとまる一む」の活用を推進し、地域コミュニティにおける拠点化を図ります。
- (2) 駅構内に残存する7棟の歴史的建造物の国登録有形文化財化を推進します。
- (3) 上記の相互効果により、地域と駅の活性化を目指します。

4. 別紙：二本木駅について

二本木駅について

1. 二本木駅の概要

妙高はねうまライン（旧信越本線）の駅で、新潟県内唯一のスイッチバック駅です。現在では珍しくなったスイッチバック駅として、全国の鉄道ファンの皆様にお越し頂いています。また駅の構内には、明治43年築の駅舎や赤レンガ造のランプ小屋など明治末期から昭和初期に建てられた歴史的建造物が多く残存しています。

現在では、駅の魅力に注目した地域住民の皆様が駅をまちづくり活動・地域観光の拠点として活用しています。

2. 歴史

二本木駅は明治44年に開業しました。開業当初は1日の利用者が100人に満たない小さな駅でしたが、大正9年に駅の隣接地で日本曹達(株)二本木工場が操業を開始すると、利用者が激増し、多い年で1日あたり約6000人に達しました。

その後、自家用車の普及などにより利用者が再び減少してしまいましたが、近年まで同社の原料や製品を輸送する貨物列車が発着していました。長い編成の貨物列車がスイッチバックする姿は、鉄道ファンの人気を集めていました。

3. 特徴

(1) スイッチバック

駅が妙高山麓の急こう配区間に所在しているため、開業時からスイッチバックを行っています。特に、他のスイッチバック駅と比べて長い距離を推進運転する点と、豪雪地帯のため雪除けの囲い（雪囲い）が線路上に設けられている点が特徴です。

(2) 歴史的建造物

明治43年築の駅舎を今も使用しています。この駅舎をはじめとして、駅構内には明治末期に建てられたランプ小屋・倉庫、そして利用者と貨物の激増に対応するために大正時代から昭和初期に増築された雪囲い・ホーム待合所・地下道及び地下道上屋・ホーム上屋の計7棟もの歴史的建造物が残存しています。全国有数の歴史的建造物が残存している駅となっています。（※当社調べ）

(3) まちづくり活動

二本木駅を拠点として、地域住民の皆様がまちづくり活動を行っています。スイッチバックグッズや地場製品の販売やジオラマの展示、コミュニティスペース「さとまる一む」での喫茶店営業を行っています。（月2回・冬期除く）